

自立活動指導の実際

～アセスメントから目標設定・支援方法へ～

大阪府立佐野支援学校
自立活動指導部 清水謙二

研修の流れ

- 1 自立活動についての理解度チェック
- 2 自立活動の概要
 - * 目標・位置づけ・内容等
- 3 新学習指導要領改訂のポイント
- 4 チェックリスト（アセスメント）の活用
- 5 事例（支援学校／支援学級）

Q1

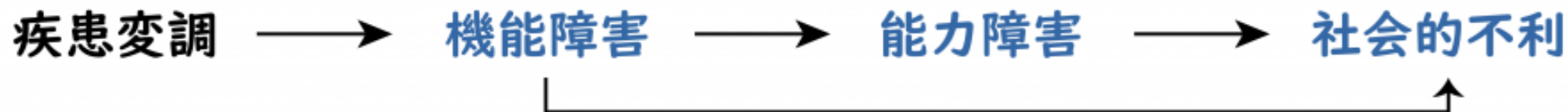
❖ 自立活動の目標

「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害
による学習上又は生活上の困難を主体的に改
善・克服するために必要な知識、技能、態度
及び習慣を養い、もって心身の調和的発達
の基盤を培う。」

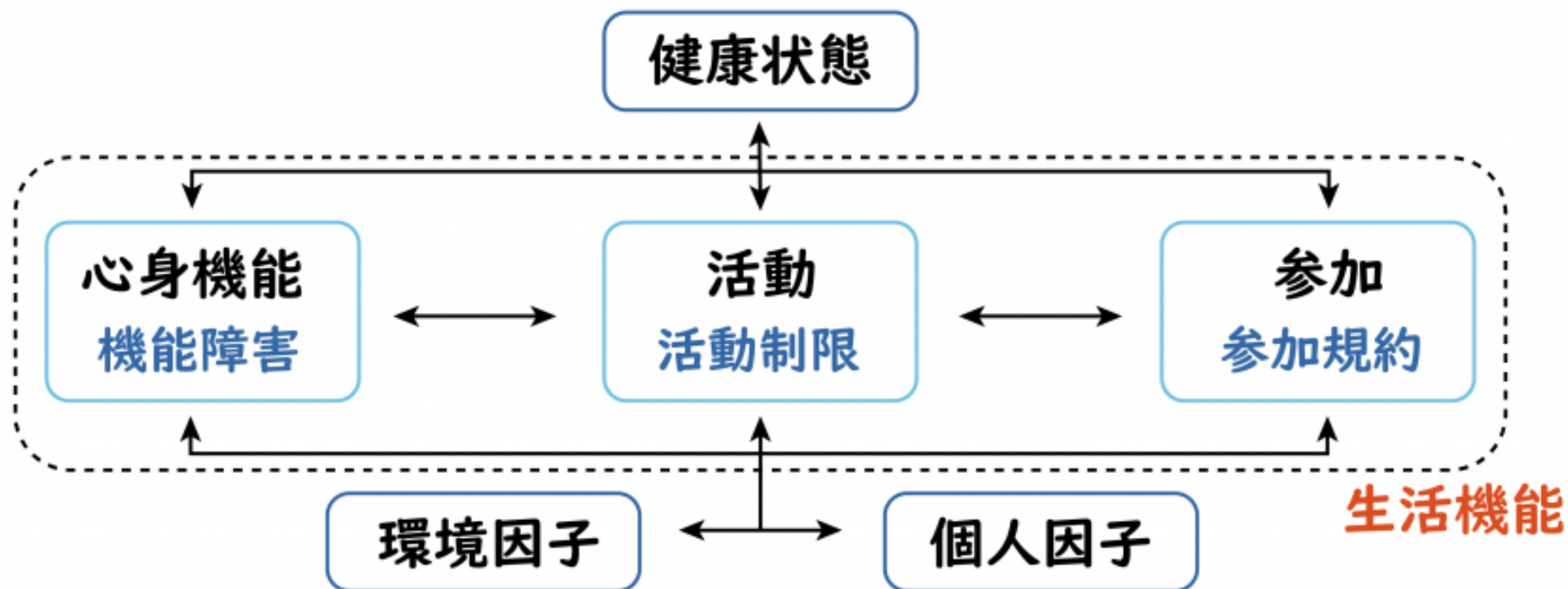
(心身の障害に基づく種々の困難を改善し、又は克服するために)

Q1

ICIDH(国際障害分類) モデル



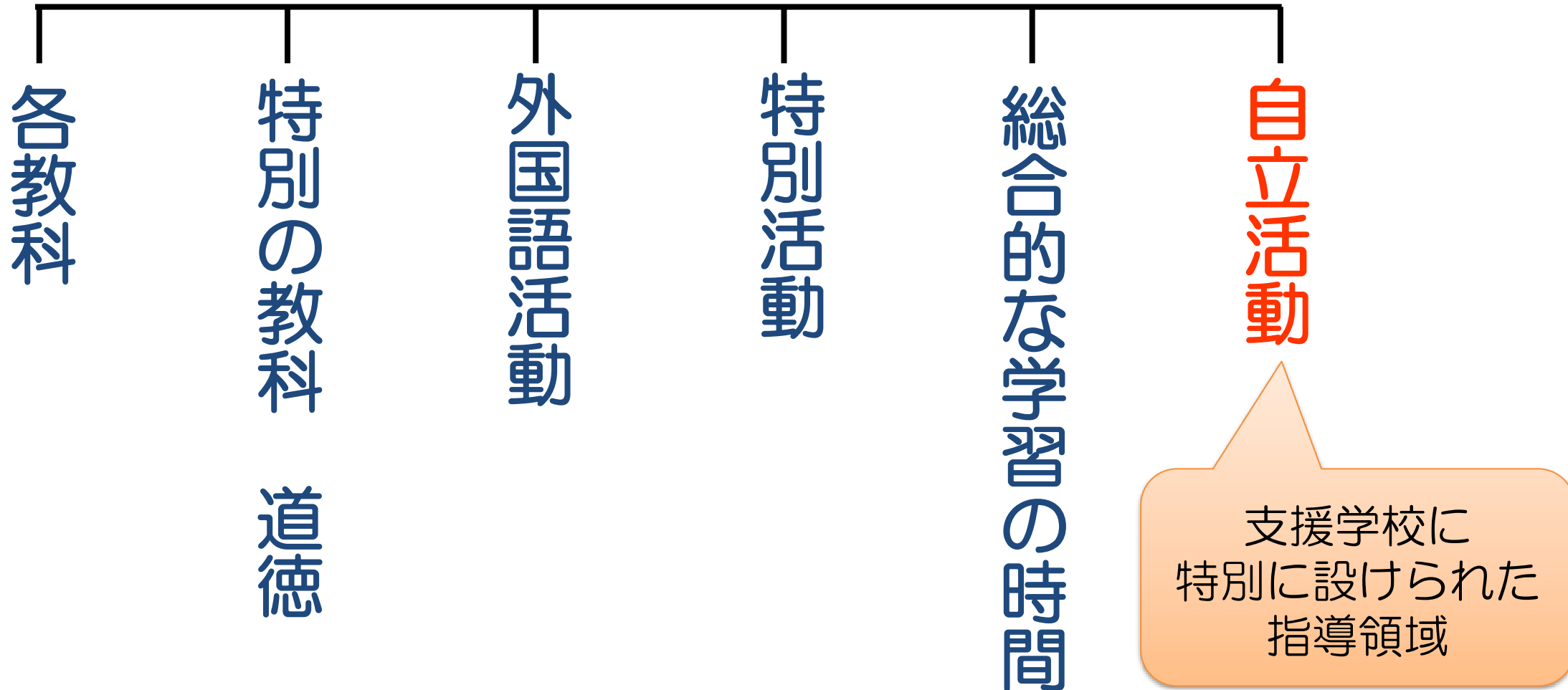
ICF(国際生活機能分類) モデル



Q2

❖ 自立活動の位置づけ

教育課程を構成する領域



Q3

❖ 自立活動の指導

朝の会
帰りの会

ことば・かず

給食

昼休み

職業

学校の教育活動全体を通じて行う指導

→ 「自立活動の指導」

時間を特設して行う指導

小学部：木3限目
中学部：7限目
高等部：1限目

→ 「自立活動の時間における指導」

専任部による抽出指導

Q4

❖ 自立活動の内容

< 6つの区分 > 26項目→27項目

健康の保持

心理的な安定

人間関係の形成

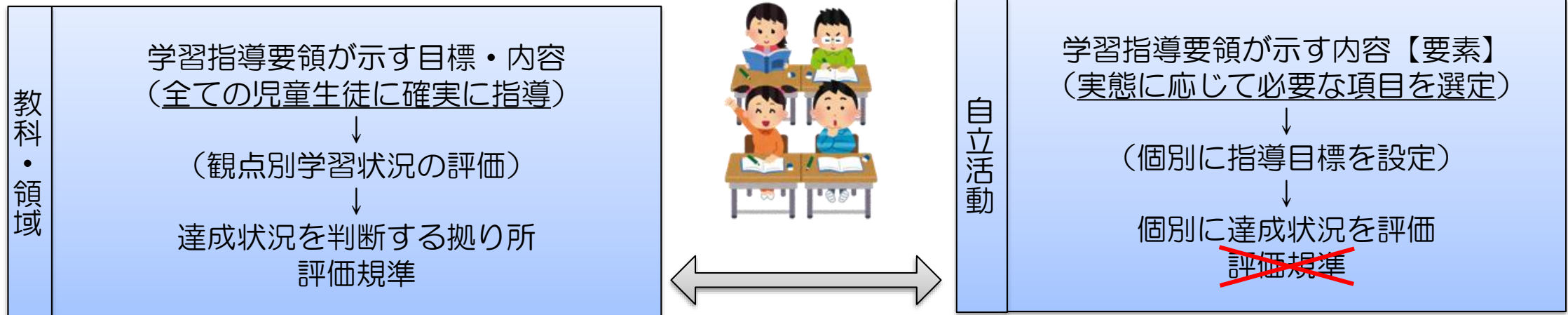
環境の把握

コミュニケーション

身体の動き



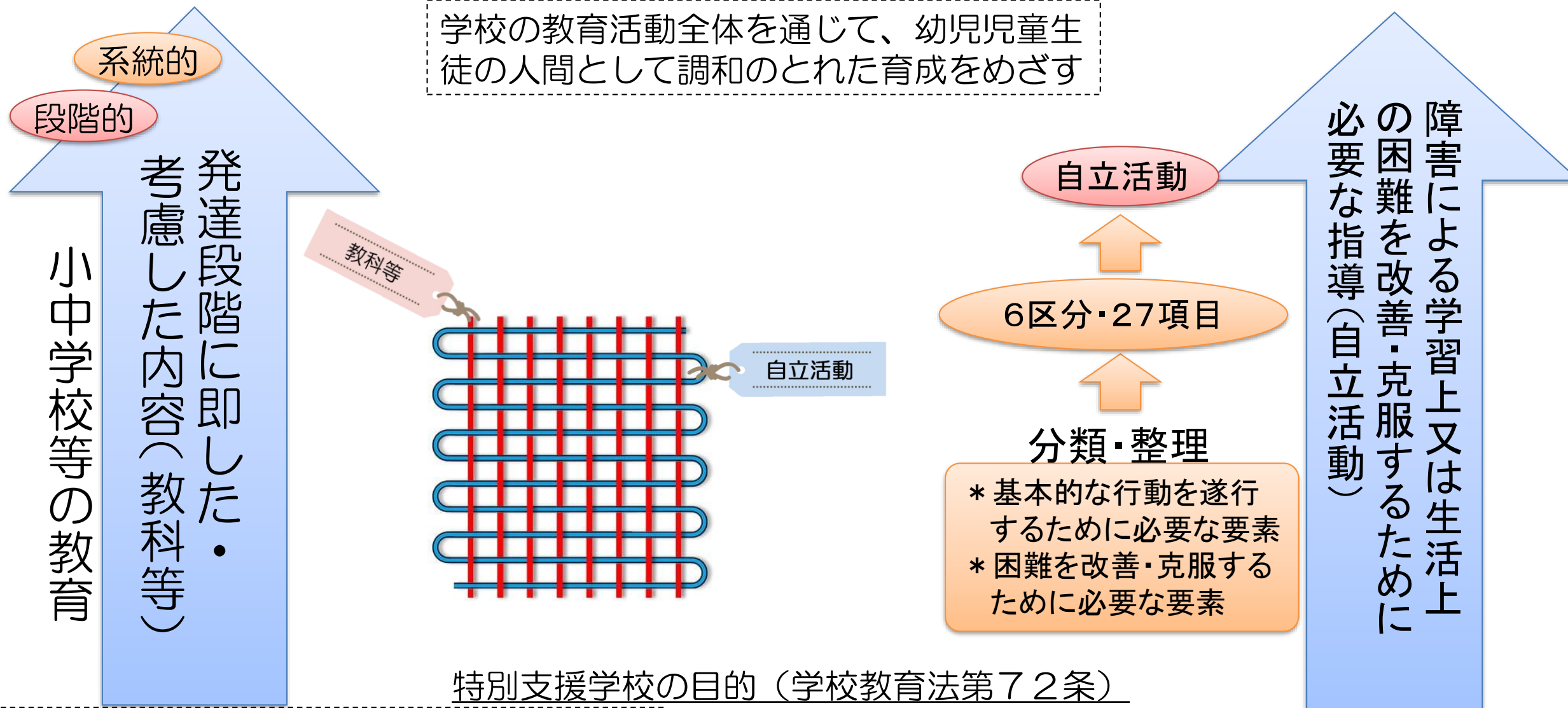
人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、**障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素**を分類・整理したものであり、それらを相互に関連づけて指導内容を設定する。



Q4

特別支援学校の教育と自立活動の位置づけ

学校の教育活動全体を通じて、幼児児童生徒の人間として調和のとれた育成をめざす



特別支援学校の目的 (学校教育法第72条)

前段「幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施す」

+

後段「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な指導を行う」

Q5

❖新学習指導要領改訂のポイント ～特別な配慮を必要とする児童生徒への指導～

全ての教科で配慮が必要！

「障害のある児童生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」



特別支援学級・通級の教育課程編成の考え方を明示！

特別支援学校学習指導要領（第7章）が示す自立活動を取り入れ、目標や内容を定めること



個別の教育支援計画・指導計画の作成と活用を明示！

特別支援学級や通級による指導を受けている児童生徒については個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用すること。



①児童の障害の状態に応じた指導の工夫（小学校学習指導要領第1章第4の2の(1)のア）



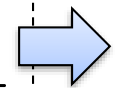
ア 障害のある児童などについては，特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ，**個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。**

小・中学校学習指導要領解説・各教科編

教育支援資料（文部科学省）

LD（学習症）

国語の書き取り
算数の筆算・暗算



活動の手順を示したシートを手元に配布



ADHD（注意欠陥多動症）

ASD（自閉スペクトラム症）

学習の流れや内容を話して伝える



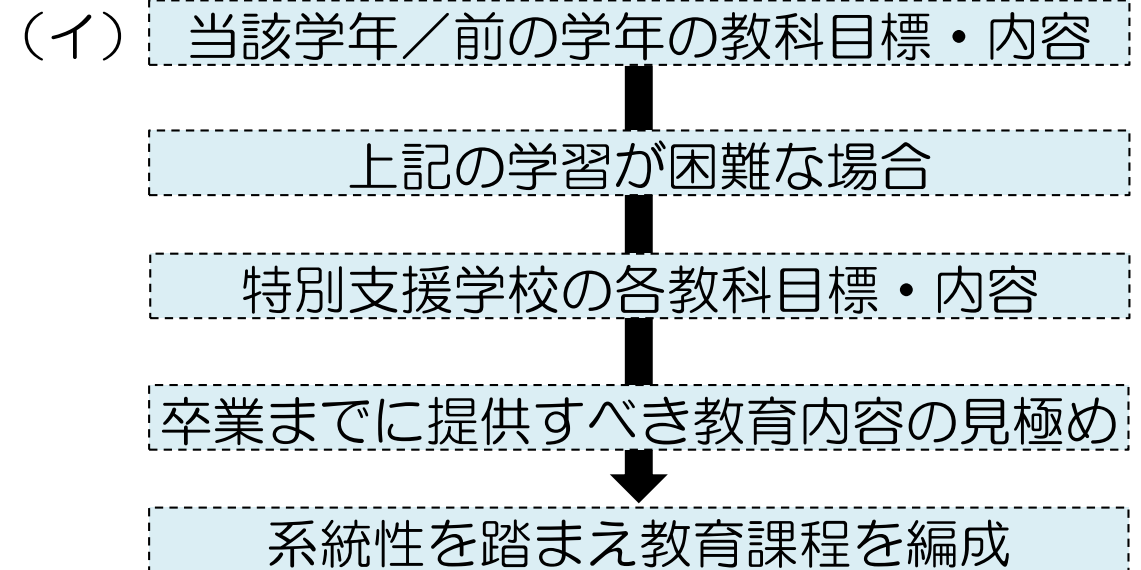
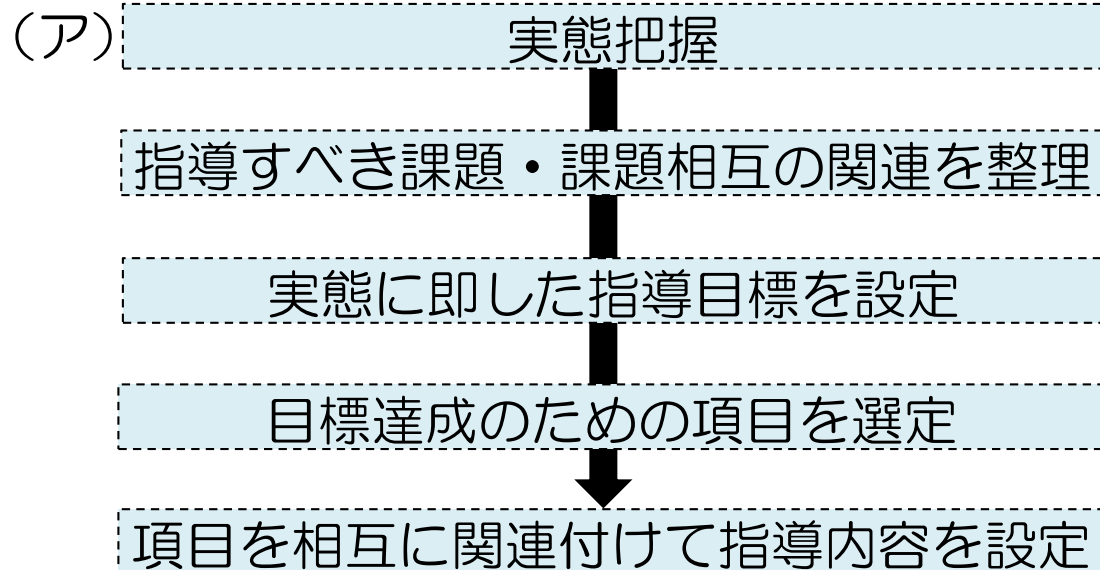
メモや絵を付加するなどの配慮

Q5 ②特別支援学級における特別の教育課程（小学校学習指導要領第1章第4の2の(1)のイ）

イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、**特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。**

児童の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、**各教科を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。**



③通級による指導における特別の教育課程（小学校学習指導要領第1章第4の2の(1)のウ）



改訂の
ポイント②

ウ 障害のある児童に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、**特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。**その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

「特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を補充するための特別の指導を含むものとする。」

「学校教育法施行規則第140条」の一部改正

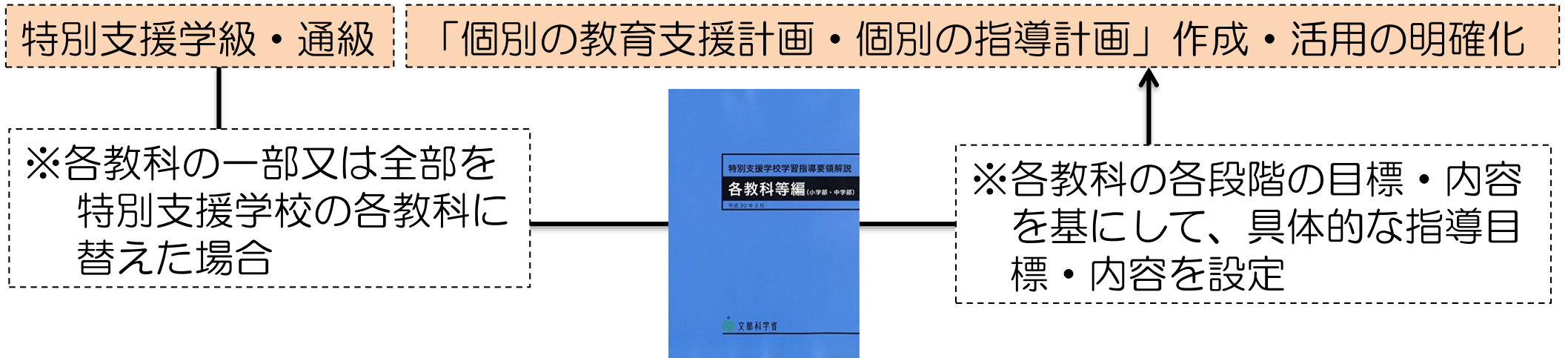
「特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を取り扱いながら行うことができる」

※通級による指導の内容について、各教科の内容を取り扱う場合であっても、障害による学習上又は生活上の困難の改善又は克服を目的とする指導であるとの位置付けが明確化

④個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成と活用（小学校学習指導要領第1章第4の2の(1)の工）



工 障害のある児童などについては，家庭，地域及び医療や福祉，保健，労働等の業務を行う関係機関との連携を図り，長期的な視点で児童への教育的支援を行うために，個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに，各教科等の指導に当たって，個々の児童の実態を的確に把握し，個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に，特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については，個々の児童の実態を的確に把握し，個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し，効果的に活用するものとする。



◆特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)



R4.4.27

第2 特別支援学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習の時間について

○また、「障害のある子供の教育支援の手引」にあるように、特別支援学級に在籍している児童生徒が、大半の時間を交流及び共同学習として通常の学級で学んでいる場合には、学びの場の変更を検討するべきであること。言い換えれば、特別支援学級に在籍している児童生徒については、原則として週の授業時数の半分以上を目安として特別支援学級において児童生徒の一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた授業を行うこと。

○ただし例えば、次年度に特別支援学級から通常の学級への学びの場の変更を検討している児童生徒について、段階的に交流及び共同学習の時間を増やしている等、当該児童生徒にとっての教育上の必要性がある場合においては、この限りではないこと。

R3 特別支援学級・通級による指導の実態調査の結果より

《改善が必要な具体的な事例》

- 特別支援学級に在籍する児童生徒について、個々の児童生徒の状況を踏まえずに、特別支援学級では自立活動に加えて算数(数学)や国語といった教科のみを学び、それ以外は交流及び共同学習として通常の学級で学ぶといった、機械的かつ画一的な教育課程を編成している。
- 全体的な知的発達に遅れがあるはずの知的障害の特別支援学級に在籍する児童生徒に対し、多くの教科について交流及び共同学習中心の授業が行われている。
- 通常の学級、通常の学級における指導と通級による指導を組み合わせた指導、特別支援学級、特別支援学校という学びの場の選択肢を、本人及び保護者に説明していない。
- 交流及び共同学習において、「交流」の側面のみ重点が置かれ、特別支援学級に在籍する児童生徒の個別の指導計画に基づく指導目標の達成が十分ではない。
- 交流及び共同学習において、通常の学級の担任のみに指導が委ねられ、必要な体制が整えられていないことにより、通常の学級及び特別支援学級の児童生徒双方にとって十分な学びが得られていない。

Q6 ❖新学習指導要領改訂のポイント～自立活動～



改訂の
ポイント①

自立活動の6区分のうち、「1健康の保持」に新たに1項目追加した。

※6区分26項目→6区分27項目



改訂の
ポイント②

個別の指導計画の作成と内容の取扱い等に関する手続きを整理する際の配慮事項を充実して示した。



改訂の
ポイント③

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の解説において自立活動の具体的な指導内容を設定するまでの例を充実して示した。



改訂の
ポイント①

❖ 自立活動の内容

< 6つの区分 > 26項目→27項目

【追加】

健康の保持

(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること

環境の把握

(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること



(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること



【改訂】

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること

個別の指導計画作成の手続き



(1) 実態把握から目標設定に至るプロセスを明確にする

(2) 指導目標も設定に至る判断の根拠を記述して残す

(3) (1)(2)の作成について複数の教員で検討するシステムを構築する

経験の少ない教員の力量UP

学習指導要領改訂のポイント

小学部・中学部学習指導要領(第7章第3の2の(2))

(2)児童又は生徒の実態把握に基づいて得られた指導すべき課題相互の関連を検討すること。

個別の指導計画を通して、前年度までの指導担当者が、その幼児児童生徒の実態をどのように捉え、なぜその指導目標(ねらい)を設定することにしたのかといった、設定に至る考え方を指導担当者で共有していくことで、指導の根拠を明らかにしやすくなると考えられる(中略)。**このため、今回の改訂においては、個別の指導計画の作成の手順の中に、実態把握から指導目標(ねらい)を設定する過程において、指導すべき課題を整理する手続きを導入し、指導目標(ねらい)を設定するに至る判断の根拠を記述して残すことについて新たに示した。**

このような分析や整理を進めていくために複数の教師で検討する学校のシステムの構築が必要！

個別の指導計画作成の手続き

- ① 情報収集
- ↓
- ②-1 ①を自立活動の区分で整理
- ↓
- ②-2 ①を学習上又は生活上の困難、学習の状況から整理
- ↓
- ②-3 ①を〇〇年後の姿の観点から整理
- ↓
- ③ ①、②-1~3から課題を抽出
- ↓
- ④ ③の課題同士の関連を整理
- ↓
- ⑤ ④に基づき指導目標を設定
- ↓
- ⑥ 目標達成のための項目選定
- ↓
- ⑦ 項目同士の関連付け
- ↓
- ⑧ 具体的な指導内容の設定

学校・学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等について情報収集					
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難、これまでの学習の習得状況の観点から整理する段階						
※各項目の末尾の()は、②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ)。						
②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階						

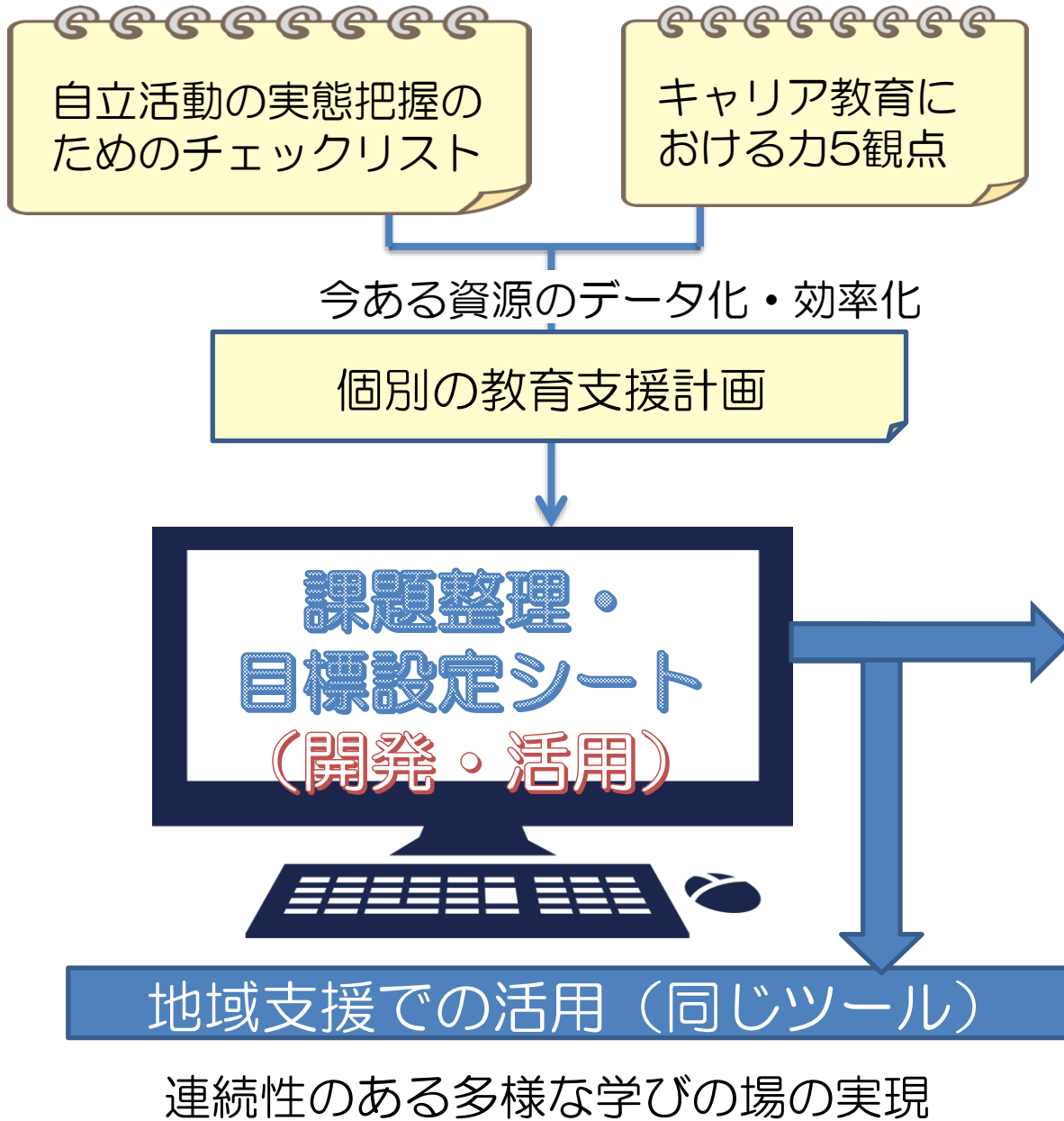
課題導出の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階					
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階					
⑤ ④に基づき指導目標を設定						
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として						



⑥ ⑤の指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定						
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目間の関連付け	⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					
⑧ 具体的な指導内容を設定						
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	エ	...	

課題整理・目標設定シートの活用

本校における個別の指導計画の作成手続き



<記入例> 自立活動指導における課題整理・目標設定シート【小学部5年生】

<p>本人・保護者の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> * 苦手なことでも挑戦しようとする意欲を持ってほしい。 * 友達との関わりがスムーズに持てるようになってほしい。 	<p>長期的な視点(3年程度)からみた教育的ニーズと支援内容</p> <p>支援の目標</p> <p>(1) 席の仕事等、自分の役割を意識して積極的に取り組むことができる。 (2) 友達との関わりを増やすことができる。</p> <p>支援の内容</p> <p>(1) クラスの仕事(朝の会の司会、給食当番等)が明確になるように、視覚的な手がかりを提示し、自分の役割に気づいて取り組むことができるように援助する。その際、苦手なことについては、教員にヘルプを出すよう促す。 (2) 遊びの時間に、教員が間に入り、友達と関わる時間を設定する。</p>	<p>名前</p> <p>〇</p> <p>その他の情報</p> <p>アセスメント表</p> <p>発達検査</p> <p>KIDS乳幼児発達スケール</p> <p>総合: 4-0 社会性(対大人): 4.2 社会性(対子ども): 2-8</p>
<p>4 健康の保持</p> <p>(1) 生活リズムや生活習慣の形成</p> <p>(2) 病気の状態の理解と生活管理</p> <p>(3) 身体各部の状態の理解と管理</p> <p>(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整</p> <p>(5) 健康状態の維持・改善</p>	<p>1 環境の把握</p> <p>(1) 保育する感覚の活用</p> <p>(2) 感覚や認知の特性の理解と対応</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p>	<p>A 日常生活に必要な力</p> <p>B 健康な心身を保つ力</p> <p>C 自ら考える力</p> <p>D 豊かなコミュニケーション</p> <p>E 意欲的に働く力</p>
<p>5 心理的な安定</p> <p>(1) 情緒の安定</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p>	<p>4 人間関係の形成</p> <p>(1) 他者との関わり</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整</p> <p>(4) 集団への参加の基礎</p>	<p>キャリア教育の情報</p> <p>A 日常生活に必要な力</p> <p>B 健康な心身を保つ力</p> <p>C 自ら考える力</p> <p>D 豊かなコミュニケーション</p> <p>E 意欲的に働く力</p>
<p>1 身体の動き</p> <p>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能</p> <p>(2) 姿勢保持・運動・動作の補助手段の活用</p> <p>(3) 日常生活に必要な基本動作</p> <p>(4) 身体の移動能力</p> <p>(5) 作業に必要な動作と円滑な移行</p>	<p>10 コミュニケーション</p> <p>(1) コミュニケーションの基礎的能力</p> <p>(2) 意図の表出</p> <p>(3) 意図の形成と活用</p> <p>(4) コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>(5) 状況に応じたコミュニケーション</p>	<p>情報・課題整理</p> <p>中心的に取り組む区分◎/関連付けて取り組む区分○</p> <p>◎や○印を付けた区分で目標設定に必要な項目・観点(各区分で必要な項目・観点を3つに絞る)</p> <p>キャリア教育で重点的に取り組む項目(A-D等)</p> <p>E-③ 決められた係活動をする C-⑦ 友だちとの関わりや集団での活動を楽しむ</p>
<p>長期目標</p> <p>(1) クラスの仕事に自ら取り組む等、できる活動の拡大を図る。 (2) 友だちを誘う、人前で発表する、ヘルプを出す等、コミュニケーション意欲の向上を図る。</p>	<p>短期目標</p> <p>(1) 給食の係(牛乳係)について、その日の牛乳の本数を出席カードで確認し、正確にクラス人数分の牛乳を給食室から持ってくるができる。 (2) 昼休みに好きな遊び(〇〇、□□等)をするときに、教員の見本を手がかりにしながら、友達を遊びへ誘うことができる。</p>	<p>学習内容</p> <p>(1) 給食の牛乳係の仕事をする。 * 出席カードでその日のクラス人数(児童+教員)を確認し、牛乳を持ってくる。 * 分らない場合は、教員にヘルプを出す。 (2) 友達を遊びに誘う。 * 昼休みに何の遊びを誰とするか教員と話し合う。 * 教員の誘い方の見本を手がかりにして、友達を好きな遊びに誘う。</p>

課題設定理由

* 友だちとの関わりや苦手な活動への取り組みに乏しは、他者と関わるためのスキル(集団参加の順序や決まりの理解、雰囲気合わせた行動、他者との基礎的なやりとりの仕方)が十分育っていないこと、活動の仕方がわからない場合の対応(援助の依頼、気持ちの表出)や自信を持って取り組める活動レパートリーの狭さが要因であると考えられる。従って、本人が得意な「大人との関わり」や「視覚情報の処理」、「同時処理」を活かしながら、係活動等、自信を持ってできる活動レパートリーを増やしていくこと、及び教員が提示する関わり方の見本を手がかりにしながら、遊びの場面等において友だちとの適切な関わりができるようになることが課題である。

自立活動における実態把握のためのチェックリスト

名前: _____

◆指導区分・観点のチェックリスト

以下の7区分について、対象の児童生徒に指導及び配慮が必要であると思われる項目・観点到○をつけてください。特に必要なものについては、◎をつけてください。

	小学部						中学部			高等部		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
記入年月日												
記入者												
6 コミュニケーション												
(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること												
意思のやりとり（表情や身振りをを用いて）					○							
他者への注目（注視する態度や構え、ことばや動きに対する関心）					○							
意思伝達手段の獲得（話し言葉、発声、身振り、手話、指さし等）												
言語概念の形成（言葉の理解、認知の発達等）												
コミュニケーション意欲の向上（要求の表現が積極的に行える等）					◎							
(2) 言語の受容と表出に関すること												
様々な手段を活用した言葉の受容（相手の意思・意図を受け止めることができる等）												
様々な手段を活用した言葉の表出（自分の意思を表出できる等）					◎							
発語機能の改善（話しことばの不明瞭等）												
発語機能を補うための補助的手段の活用（文字・身振り等）												
(3) 言語の形成と活用に関すること												
自発的な発声・発語の促進（かけ声、擬音語・擬態語の活用）					○							
読解力や聞く力の向上												
語彙や文法体系の習得												
抽象的な言葉の理解（言葉の意味理解を深める）												
(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること												
文字言語や絵・シンボルを使ったコミュニケーション（筆談、文字盤、VOCA、コンピューター等）												
身振りを使ったコミュニケーション（マカトン、手話、自然な身振り、指さし等）												
意思伝達手段の選択・活用（ことばに身振りを付ける、話し言葉を補うために機器を活用する等）												
(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること												
適切な言葉の使い方（相手によって使い分ける／相手の立場や気持ちに応じた言葉を選ぶ等）					◎							
場に応じた話題の選択					○							
声の大きさや話し方の調整（距離によって・広さによって使い分ける等）												
状況に応じたコミュニケーションの展開												

対象児童生徒に指導や配慮が必要である項目・観点到◎（特に必要）や○（必要）を記入する

「自立活動の個別の指導計画」作成の手引 解説書

※項目・観点の内容をより詳しく知りたいときは.....

■■■■ 心理的な安定 ■■■■■■

(1) 情緒の安定に関すること

□ 不安感の軽減（話しこぼし、書きこぼし、不安感など）

□ 不安感の軽減（話しこぼし、書きこぼし、不安感など）

(2) 状況の理解と変化への対応に関すること

□ 状況の理解と変化への対応に関すること

□ 状況の理解と変化への対応に関すること

事例（１）「心理的な安定」

自立活動チェックリスト

中心的に指導する区分 ←

→ 関連づけて指導する区分

【心理的な安定(1)(2)(3)】

- ◎リラクセーション
- ◎変化する状況の理解→変化に応じた適切な行動
- 熱中できる活動や学習課題づくり

動作法

行動と気持ちのレベル表

【環境の把握】

- ◎視覚的な情報の活用

【人間関係の形成(2)(3)】

- ◎自己の行動特徴の理解→具体的な場面での対応
- ◎出来事の流れの把握
- 相手の言葉や表情の読み取り

行動と気持ちのレベル表

SST絵カード

表情カード

ストレス
チェック

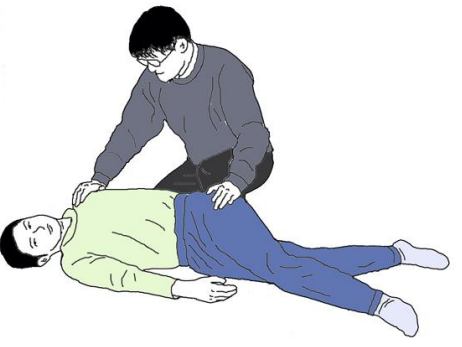
<目標設定>

- * 援助に合わせて心身の緊張をリラックスできる（衝動性のコントロール）
- * 状況を表す絵カードを見て、どのような場面か答えることができる
- * 他者や自己の気持ちを考えることができる
- * レベル表を手がかりにして今の気持ちに応じた行動ができる

事例（１）「心理的な安定」

指導内容・方法

<リラクセーション課題>



軀幹ひねり



肩の上げ下げ

引用資料：SST絵カード（株式会社エスコアール）

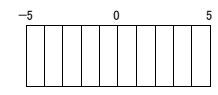


<ストレスチェック>

今、あなたの体と心はどんな感じですか？当てはまるところに○をつけましょう。



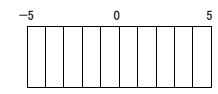
イライラ／ふまん



たのしい／まんぞく



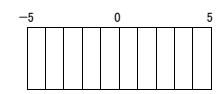
かなしい／こまっている



うれしい／あんしん



からだがだるい



からだがかるい

援助の受け入れ

援助者への注目
援助部位への注目

緊張の左右差の軽減

自己のからだの感じ
→言語化

心身のリラックス感

表情カード



行動と気持ちのレベル表

レベル	行動	気持ち	対応
5	* 衝動的に動き、人に危害を加える		クールダウンの部屋へ行く
4	* 動き回ったり、物を投げたりする		集中できる課題を行う
3	* 人の顔や髪の毛が気になる		人から離れる
2	* 話し出すと止まらなくなる		話す時間を決める
1	* 学習に集中できる		そのまま続ける

* 自分の行動をレベル化する。
 * 各レベルにおける気持ちについて感情を表す絵カードで示す。
 * 今の気持ちや行動がどのレベルであるか考

* 各レベルにおける対処法を考える。

事例（１）「心理的な安定」

指導内容・方法

ストリテジーシート

行動： 朝、父親の寝室に入って顔を蹴る

A：事前

父親と遊んで欲しくて父親を起こしに行くときに

B：行動

父親の顔を蹴る

C：事後

父親が子どもに怒る

事前の対応の工夫

- 父親が疲れているとき、部屋の前に「起こさないで下さい」というカードを貼る
- 父親が遊べる時部屋の前に「5分だけ遊びます。起こして下さい」
- 余裕がある時に遊ぶ

望ましい行動

- ①父親を起こして「おはよう」の挨拶をする（遊ぶ）
- ②起こさずにそっとしておく

◆事前・事後の環境の工夫を行っても望ましくない行動が起きたとき！

ほめ方・楽しみな活動

- カードの約束が守れたことを褒める
- 一緒に遊ぶ

起こってしまったときの対応

- 本人にどうしたら良かったのかを聞く
- 要求の出し方を再確認

事例（2） 「心理的な安定」 「環境の把握」 「コミュニケーション」

【協働研究参加者】

- * 支援学級担任：7人
- * A市教育委員会指導主事1人
- * LS：2人
- * 対象児童：24人



協働研究の取り組み

【2年め】

- * グループング→グループの学習指導案
- * 授業参観／ビデオによる授業改善
- * 研修（個別の指導計画）：夏期休業中
- * 個別の指導計画作成
- * 「支援教育推進委員会」での発表→情報共有
- * 次年度に向けて
→チェックリスト・設定シート作成

【初年度】

- * 自立活動の授業参観（週1回の時間における指導）
- * チェックリスト→課題整理・目標設定シート作成
（研修→事例検討）
- * 24人の設定シートの作成
- * 研修（自立活動の指導内容）：夏期休業中
- * グループング（心理的な安定／コミュニケーション／環境の把握）
- * グループの学習指導案作成→ビデオによる授業改善
- * 次年度に向けて→チェックリスト・設定シート作成

【3年め】

- * グループング→グループの学習指導案
- * 授業参観／ビデオによる授業改善
- * 研究授業→反省会（校内での情報共有）
- * 個別の指導計画作成→通常学級との連携
- * 「支援教育推進委員会」での発表→情報共有
- * 次年度に向けて

【4年め】学期に1回程度

◆協働研究の協議内容における各ツールの活用状況

内容 (ツール) 時期	研究協議の内容 (ツール)									研修	授業見学 (ビデオ含む)
	チェックリスト						チェックリスト				
	解説書					解説書					
	課題整理・目標設定シート/個別の教育支援計画						学習指導案・個別の指導計画				
実態把握	課題整理	自立活動の区分	課題設定の根拠	個人の目標設定	指導内容・方法	グルーピング	指導案・指導計画	学級との連携			
① (5月)	○		○			◎	○	◎		◎(設定シート)	ビデオ
② (6月)	○		○			◎		◎			授業見学
③ (7月)	○		○								ビデオ
④ (8月)											
⑤ (9月)					○			◎	◎	◎(研究授業)	ビデオ
⑥ (10月)					○			◎	◎		授業見学
⑦ (11月)					○			◎	◎		ビデオ
⑧ (12月)	◎		◎				◎ (次年度)	○			ビデオ
⑨ (1月)		◎	○	◎	◎	○	○				ビデオ
⑩ (2月)		◎	○	◎	◎	○	○			◎(市教研発表)	ビデオ
⑪ (3月)		◎	○	◎	◎	◎					ビデオ
◎…中心課題 (研究協議で中心的な課題として話し合った内容)											
○…関連課題 (研究協議で中心課題に関連する課題として話し合った内容)											

事例（２） 「心理的な安定」

協働研究の取り組み

2 心理的な安定	A	B	C	D	E	F
(1) 情緒の安定に関すること						
気持ちの表出（嬉しいこと・嫌なこと・不安なことを伝える）	◎		◎		◎	
リラクゼーション（興奮を静めるための場所の活用、手段の獲得）		◎		○		○
自己肯定感の向上（成功体験の積み重ね）	◎		○	◎	◎	
情緒安定のための環境改善（生活環境、生活リズム、交友関係等）	○	○		○		○
(2) 状況の理解と変化への対応に関すること						
状況の的確な理解（場所や場面の情報を得る）	◎					
変化する状況の理解→変化に対応した適切な行動	◎	◎		◎	◎	
援助の依頼（必要な情報を得る、不安な気持ちを訴える）	○		○		○	○
集団構成や活動内容の工夫（安心して活動に参加できるための配慮等）	○	○		○		
(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること						
障害の状態の理解（得意・不得意、できる-できない等を知る）						
熱中できる活動や学習課題づくり（意欲の向上の視点から）	◎	◎		◎		○
できる活動の拡大（自分でできることを増やす、援助を受けてできることを作る）			◎		◎	
先輩や仲間との話し合い（ピアカウンセリング）	○		○			

【区分：心理的な安定】

授業の展開			指導目標				
			A	B	C	D	
			*落ち着いた活動に参加できる *相手の気持ちを考え発言できる	*教員や友だちと一緒に活動できる *自身を持って活動に取り組むことができる	*気持ちを安定させて活動できる *活動で困った時にヘルプを出すことができる	*積極的に活動への参加ができる *友だちが困っている時にアドバイスができる	
時間	学習内容	指導方法	◎心理 ○人間関係	◎心理 人間関係	◎心理 ○コミュ	◎心理 コミュ	
5分	*はじめのあいさつ *今日のめあてを聞く *好きな食べ物を発表する	*代表で挨拶する子どもを決め、注目するよう促す *グループ全体のめあてを伝える（文字カード） 「自分のチームの友だちを応援しよう」 「最後まで活動に取り組もう」 *教員が発表のモデルを最初に示す→好きな番組、ゲーム、楽しかったこと等、発表する内容を工夫する	*めあてを確認するよう促す		*事前に発表内容を決めて練習しておく	*事前に教員と話し合って発表内容を決めておく	*めあてを大きな声で発表するよう促す
10分	*大型ジェンガ ・2チームに分かれ、椅子に座る ・ルールを聞く ・順番を決める ・「お助けマン」を要求する ・順番を守って取り組む ・成功したら拍手をする ・お助けマンとハイタッチをする	*牛乳パックで作ったジェンガを準備する *円形に椅子を並べ座るよう促す（2チーム） *ルールを説明する ・手を放して3秒キープで交替 ・ジェンガを抜く時と置く時は「お助けマン」を活用できる ・順番をまもるよう促す ・成功したら、みんなで拍手するようにする ・成功したら「お助けマン」とハイタッチする	◆順番を守る、友だちに拍手する等、落ち着いた活動できる *「お助けマン」にお礼を言うよう促す	◆「お助けマン」の役割で友だちと一緒に活動できる	◆困ったときに「お助けマン」を呼んで活動に取り組むことができる	◆「お助けマン」の役割で友だちに抜き方や置き方をアドバイスできる *友だちが拍手やハイタッチするよう声かけを促す	
25分	*ぺったんボールゲーム ・2チームに分かれる ・見本を見る（見本をする） ・ルールを聞く ・友だちを応援する ・友だちを褒める ・得点を計算する	*スライムボールと的（床・ホワイトボード）を準備する *青チームと赤チームに分かれ、向かい合って座る *児童（生徒）に見本をするよう促し、ルールを説明する ・上の学年から順番に投げる ・円形の枠線を提示しどこから投げても良いことを伝える ・的の難易度に応じて点数を明記する ・加点があることを伝える（教員がポイントカードを渡す） ☞同じチームの友だちを応援する（グリーンポイント） ☞同じチームの友だちに褒める（グッドポイント） *得点表に得点を記入し、勝敗を決める	*ルールを理解ができていかどうか確認する ◆友だちを応援したり褒めたりすることができる	*事前に学習内容を伝え教員と一緒に練習する ◆Fの助けを得ながら活動に最後まで取り組むことができる	*事前に学習内容を伝え教員と一緒に練習する ◆落ち着いた活動できるように深呼吸してから活動に取り組むことができる	*見本をするよう促す *Cが困っていたら助けるよう促す ◆チームが盛り上がるよう応援や褒め方の見本を積極的に提示できる	
5分	*振り返りをする ・全体のめあてについて ・大型ジェンガについて ・ぺったんボールゲームについて	*振り返りを行う ・全体のめあてを達成することができたか ・活動の感想（楽しかった点、難しかった点、気持ち等）	*全体のめあてが達成できたか発表するよう促す	*発表前に教員と内容相談するよう促す	*発表前に教員と内容相談するよう促す	*全体のめあてが達成できたか発表するよう促す	

評価	月/日	B	C	D	F
短期目標（黄色）が達成できたか	/				
<評価基準>	/				
援助なしで達成できた…◎	/				
声かけの援助で達成できた…○	/				
手を添える援助で達成できた…△	/				
目標の見直しが必要…×	/				

【区分：環境の把握】

授業の展開			指導目標			
			A	B	C	D
時間	学習内容	指導方法	◎環境 ○心理・コミュ	◎環境 ○コミュ	◎環境 ○コミュ	◎環境 心理
5分	<ul style="list-style-type: none"> *はじめのあいさつ *個人のめあてを確認する *好きな食べ物を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> *代表で挨拶する子どもを決め、注目するよう促す *個人のめあてを書いたチェック表を1人ずつ配り確認する *マイクをもらってから発言するよう促す→好きな番組、ゲーム、楽しかったこと等、発表する内容を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> *状況が変化しても対応することができる *言葉の指示を記憶し動作で再現できる 	<ul style="list-style-type: none"> *カードを手がかりにして指示に対応できる *わからない時にヒントを要求できる 	<ul style="list-style-type: none"> *話している人に注目して内容を理解できる *過去の行動、現在の行動を伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> *落ち着いて活動に参加できる *自分から進んで感想を発表できる
15分	<ul style="list-style-type: none"> *ジャンプゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・見本を見る ・ルールの説明を聞く ・ルールについて質問する ・順番を決める ・ゲームを開始する 	<ul style="list-style-type: none"> *色コーン、足型、色カードを準備する *見本を提示する *ルールを説明する <ul style="list-style-type: none"> ・指定された色を記憶し色コーンに向かってジャンプする ・実態に応じて色カードを使用するよう促す ・色+足型（両脚・片足）で難易度を設定する ・友だちが上手くできたら拍手する *ゲームを行い、良いところを褒める 	<ul style="list-style-type: none"> *個人のめあてを確認 ◆発表内容が変わっても対応できる 	<ul style="list-style-type: none"> *見本に注目するよう促す ◆色カードを手がかりにして順番を記憶し、指示された色の順番通りにジャンプできる 	<ul style="list-style-type: none"> *個人のめあてを確認 ◆マイクを持っている人に注目して聞く 	<ul style="list-style-type: none"> *個人のめあてを確認
20分	<ul style="list-style-type: none"> *ブラックボックス <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの説明を聞く ・順番を決める ・ヒントを要求する ・ヒントを考え伝える ・正答したら拍手をする ・友だちを応援する 	<ul style="list-style-type: none"> *ブラックボックス、具体物、ヒントカードを準備する *ルールを説明する（手順カード） <ul style="list-style-type: none"> ・今日の具体物のカテゴリー（文房具、野菜等）を伝える ・1人15秒触れて手を上げて応える ・分からないときはヒントカードを要求し、そのカードに書かれたヒント（色、形、用途、味等）をもらう *正答した場合はみんなで拍手するよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> *教員に注目するよう声かけをする 	<ul style="list-style-type: none"> ◆色カードを手がかりにして順番を記憶し、指示された色の順番通りにジャンプできる ◆具体物が何かかわからない時にカードを引いてヒントを要求できる *自ら要求できない時はヒントカードがあることを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> *教員に注目するよう声かけする *ルールが理解できているかどうか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> *事前に内容を伝えて安心して学習に取り組めるよう配慮する
5分	<ul style="list-style-type: none"> *振り返りをする <ul style="list-style-type: none"> ・個人のめあてについて ・ジャンプゲームについて ・ブラックボックスについて 	<ul style="list-style-type: none"> *振り返りを行う <ul style="list-style-type: none"> ・個人のめあてを達成することができたか ・活動の感想（楽しかった点、難しかった点、気持ち等） 	<ul style="list-style-type: none"> *個人めあてチェック表に記入し、その内容を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> *個人めあてチェック表に記入し、その内容を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> *個人めあてチェック表に記入し、その内容を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> *発表前に教員と打ち合わせをする ◆活動の感想をみんなの前で発表できる

評価	月/日	A	B	C	D
短期目標（黄色）が達成できたか	/				
<評価基準>	/				
とてもよくできた…◎	/				
まあまあ達成できた…○	/				
あまり達成できなかった…△	/				
目標の見直しが必要…×	/				

【区分：コミュニケーション】

授業の展開			指導目標	A	B	C	D
時間	学習内容	指導方法		◎コミュ ○環境	◎コミュ ○心理	◎コミュ ○人間関係	◎コミュ ○人間関係
5分	<ul style="list-style-type: none"> *はじめのあいさつ *今日のめあてを聞く *好きな食べ物を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> *代表で挨拶する子どもを決め、注目するよう促す *グループ全体のめあてを伝える（文字カード） 「相手の目を見て最後まで話を聞こう」 「みんなに感想や意見を伝えよう」 *教員が発表のモデルを最初に示す→好きな番組、ゲーム、楽しかったこと等、発表する内容を工夫する 	◎コミュ ○環境	<ul style="list-style-type: none"> *他者に注目して指示に応じた行動ができる *順番通りに活動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> *安定した気持ちで活動に参加できる *活動で困った時にヘルプを出すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> *考えや気持ちを正確に伝えることができる *場面・状況に応じた言葉遣いができる 	<ul style="list-style-type: none"> *活動の流れを理解し進行役ができる *場面・状況に応じた言葉遣いができる
10分	<ul style="list-style-type: none"> *ジェンガをする <ul style="list-style-type: none"> ・2チームに分かれる ・見本を見る（見本をする） ・ゲームをする 	<ul style="list-style-type: none"> *チーム分けを伝える（AC、BD） *見本をする2名（CD）に、ルールを説明しながら見本を見せるよう促す *タイマーが鳴るまでゲームを続けるよう伝え、開始する 	◎コミュ ○環境	<ul style="list-style-type: none"> *めあてが何であったか確認（質問）する *発表する友だちに注目するよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> *事前に話す内容を決めて練習しておく 	<ul style="list-style-type: none"> *ゆっくり話すよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> *慣れてきたら発表の司会をするよう促す *ゆつくり話りよつぽ
25分	<ul style="list-style-type: none"> *玉入れ <ul style="list-style-type: none"> ・2チームに分かれ座る ・見本を見る（見本をする） ・ルールを聞く ・作成タイム① ・4個投げ→作戦タイム② ・得点を表に記入する 	<ul style="list-style-type: none"> *代表の児童（生徒）に見本を見せるよう促す *ルールの補足説明をする（手順カード、得点表） <ul style="list-style-type: none"> ・1チーム9個の玉をかごに投げ入れて点数を競うゲーム ・距離や高さ等、難易度に応じて点数の異なるかごを設置 ・最初と4個投げ終わった時点で作戦タイムを設ける ・一人3個は必ず投げる（残り3個は誰が投げて可） ・得点を合計し、勝敗を決める 	◎コミュ ○環境	<ul style="list-style-type: none"> *途中で注意が逸れないように声かけをする *作戦タイムで相手の声を聞くよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> *困った時、教員にヘルプカードを出して教えてほしいことを伝えることができる *事前に学習内容を伝える *困った時、教員にヘルプカードを出して教えてほしいことを伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> *見本をするよう促す *相手にわかりやすい明（ゆっくり、丁寧言葉）ができる *作戦タイムを進めるよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> *見本をするよう促す *相手にわかりやすい明（ゆっくり、丁寧言葉）ができる *見本をするよう促す *相手にわかりやすい明（ゆっくり、丁寧言葉）ができる *作成タイムを進めるよう促す
5分	<ul style="list-style-type: none"> *振り返りをする <ul style="list-style-type: none"> ・全体のめあてについて ・ジェンガについて ・玉入れについて 	<ul style="list-style-type: none"> *全体のめあて、ジェンガ、玉入れについて振り返りを行う <ul style="list-style-type: none"> ・全体のめあてを達成することができたか ・活動の感想（楽しかった点、難しかった点、気持ち等） 	◎コミュ ○環境	<ul style="list-style-type: none"> *全体のめあてが達成できたか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> *発表前に教員と内容相談するよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> *活動の感想の観点に沿って自分の考えを発表することができる 	<ul style="list-style-type: none"> *見本（ルール説明）上手にできたかどうか発表するよう促す

評価	月/日	A	B	C	D
短期目標（黄色）が達成できたか	/				
<評価基準>	/				
*援助なしで達成できた…◎	/				
*援助があれば達成できた…○	/				
*達成できなかった…△	/				
*目標の修正が必要…×	/				

番号	学年				
記載者	記載年月日				
指導の区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き コミュニケーション
長期目標	1年間で達成できると考えられる目標を具体的に記入（個別の教育支援計画との繋がりを留意）する			中心的な区分に◎、関連付けて指導する区分を○で示す	
短期目標	1学期間で達成可能な目標をできるだけ具体的に記入する →長期目標を達成するためのスモールステップになっているか				
指導期間（令和 年 月 日～令和 年 月 日）					
学習内容	指導の方法（指導の場）			評価	
※児童が取り組む学習活動を詳しく記入 ※児童が主語になるよう記述	【通常の学級】	左側の「学習内容」について、児童が主体的・対話的で深い学びができるよう、具体的な指導方法や配慮点を記入する			※短期目標に関わる学習内容について、児童がどの程度達成できたか、◎○△等の記号で評価する
	【支援学級】	※上記の短期目標を達成するために、通常の学級と支援学級でどのような指導を行うかを明記する。			
自立活動	【通常の学級】				
	【支援学級】				
総括的評価	※「自立活動の時間における指導」について学習内容・指導の方法を記述する				
	※短期目標がどの程度達成できたか、どの指導が有効であったか等について記入する。また、十分達成できなかった場合には、その要因や計画の見直しについて記入し、次学期（次年度）に繋げていく				
記載年月日（令和 年 月 日）					

◆通常の学級と支援学級の連携

- 「個別の指導計画」→様式の変更
- 通常学級担任と支援学級担任で「個別の指導計画」を作成
- 短期目標を達成するための指導方法（通常の学級／支援学級）の確認

短期目標	①他者に注目して指示に応じた行動ができる。 ②順番通りに活動することができる。	
学習内容	指導の方法（指導の場）	評価
学習用具の整理整頓	【通常の学級】 ①②朝のHRでその日使用する物を手続きカードに従って整理するよう促す （声かけのタイミングに留意する）	
学習の流れを確認する	【支援学級】 ②最初に手続きカードを確認し学習の流れを理解する	
ルールの説明を聞く	【時間における指導】 ①ルールの説明を最後まで聞くことができる	

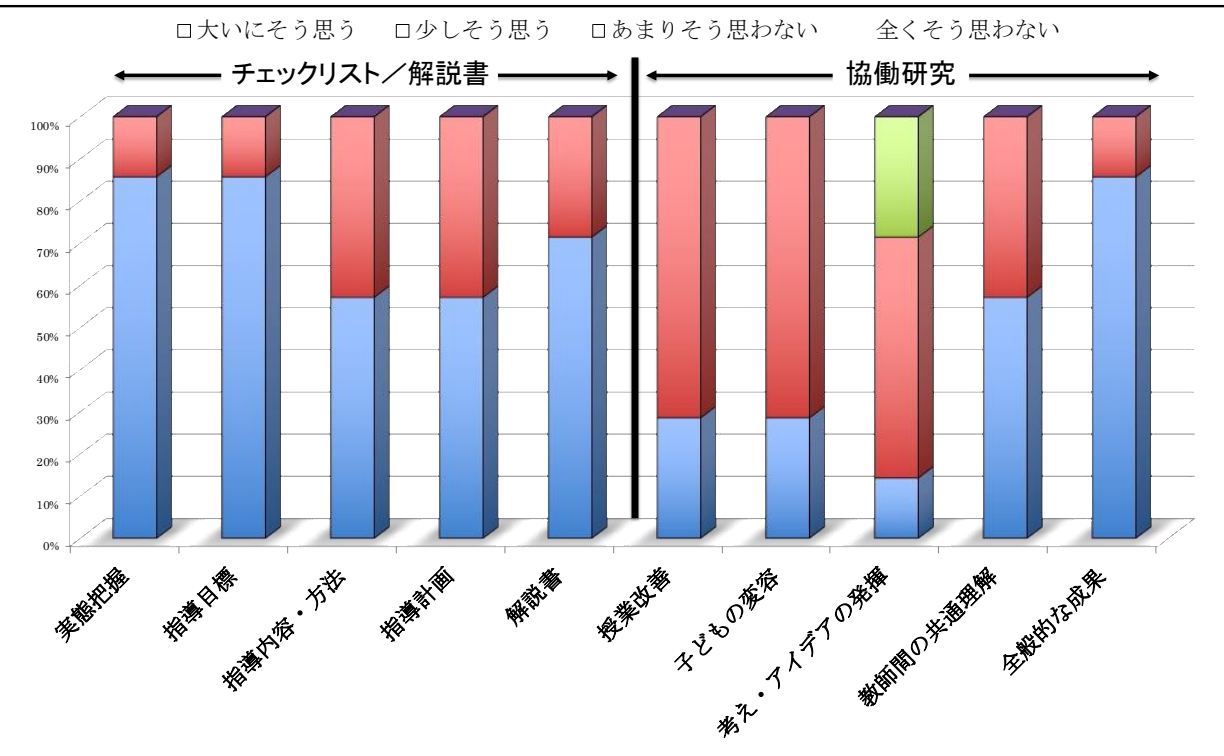


Fig.1 チェックリスト／解説書・協働研究に関するアンケート結果

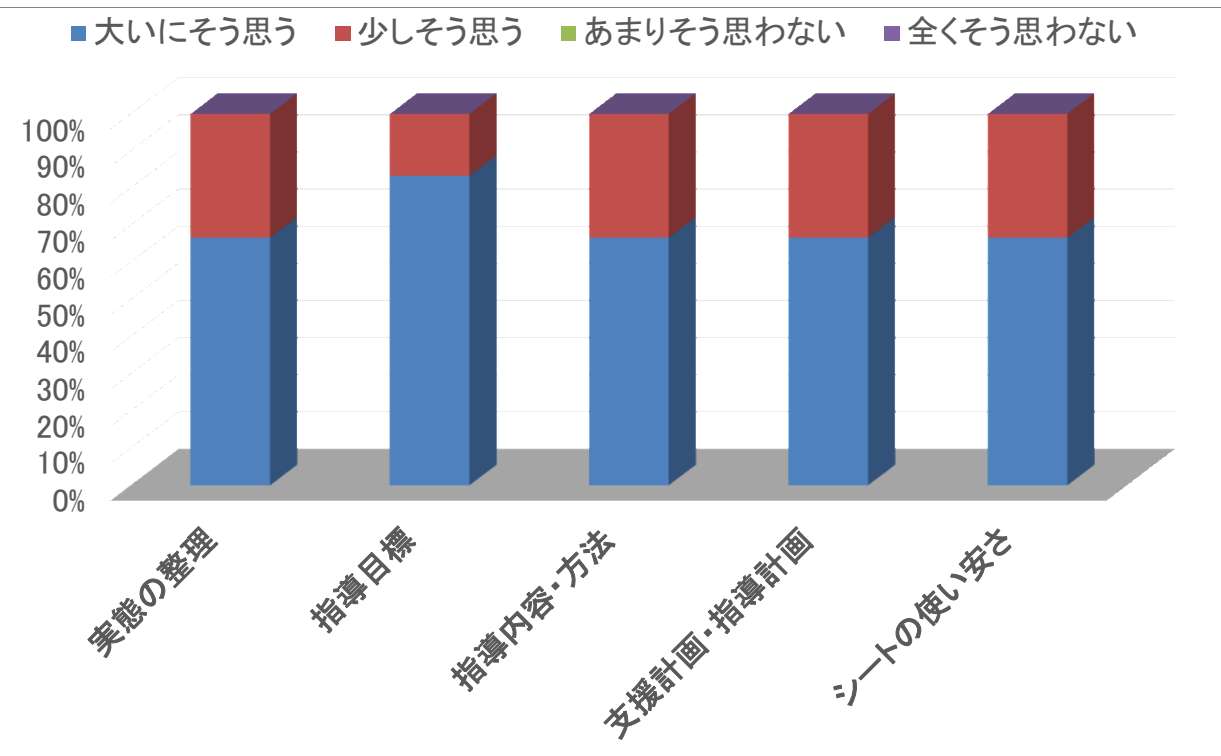


Fig.2 「課題整理・目標設定シート」に関するアンケート結果

<記述>

- * 課題や目標設定を明確にすることで、学習内容を考えやすくなった。
- * 自分たちの悩んでいる部分についての的確な助言があり、とても勉強になった。
- * 子どもたちの実態などをみんなで確認できて（わかりあえて）よかった。
- * 今年度で3年めになるが、年々勉強になり、子どもの様子も変容している。市内にも広めることができるよう取り組んでいきたい。
- * 自分たちの授業スキルが向上した。
- * 新しいアセスメントの方法を知ることができ、実態把握から子どもたちについてより深く話し合えたり、それによる成果も感じられたりしてとても良かった。

◆地域における自立活動指導のポイント

- 実態把握～目標設定→【プロセスの明確化】
 - 個人の中心区分・関連区分の決定→グルーピング
 - 個人の目標設定→指導内容・方法の検討
 - グループの学習指導案
 - 重点目標・配慮点・評価方法の確認
 - ビデオによる振り返り→教員間の共通理解・授業スキルの向上
 - 個別の指導計画→支援学級と通常の学級との連携
- 教科指導と自立活動→中心区分／関連区分を教科指導の中にどう位置づけるか

個別の教育支援計画

教育課程
づくり

人材育成

個別の指導計画

事例 (3) 「コミュニケーション」

AAC指導

コミュニケーション

心理的な安定

環境の把握

➤ 基礎的コミュニケーション指導

- * 動作を通したやりとり課題
- * 動作模倣
- * 物を通したやりとり課題

➤ 実用的コミュニケーション指導

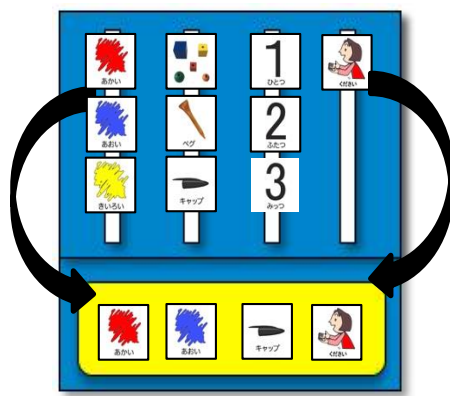
- * 要求スキル
- * 叙述・伝達・報告スキル

➤ 家庭・地域生活スキル指導

- * 買い物スキル等

＜アセスメント＞

- * コミュニケーションスキル選定検査
→ 音声 / 絵カード / 身振り
- * エコロジカルアセスメント
- * 自立活動チェックリスト

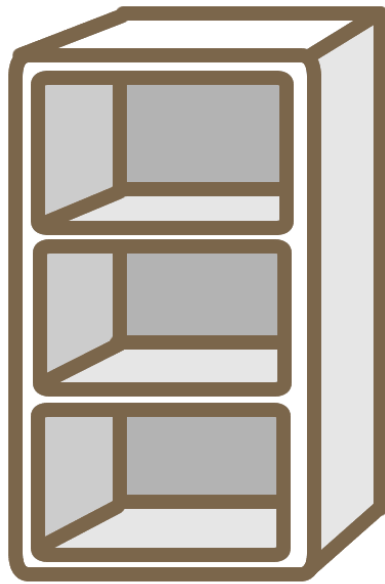


ステップ	C	B	A	SP	備考
1: プリペイドカードをポケットに入れる					
2: 絵カードで買ってくる品物を確認する					
3: 店に入って買い物かごを取る					
4: 絵カードで品物を確認する					C : 手を持ってガイドする (身体的ガイドダンス) B : 指さしをしてガイドする A : 声かけをする SP : 援助しない (一人でできる)
5: 品物を探す					
6: 品物をかごの中に入れる					
7: 絵カードで品物を確認する					
8: 品物を探す					
9: 品物をかごの中に入れる					
10: 絵カードで品物を確認する					
11: 品物を探す					
12: 品物をかごの中に入れる					
13: レジの前に行く					
14: 買い物かごを店員に渡す					
15: プリペイドカードを店員に渡す					
16: 会計が終わるまでレジの前で待つ					
17: プリペイドカードを店員から受け取る					
18: プリペイドカードをポケットに入れる					
19: 品物を入れた袋を受け取る					
20: 店から出る					

◆スケジュールの活用

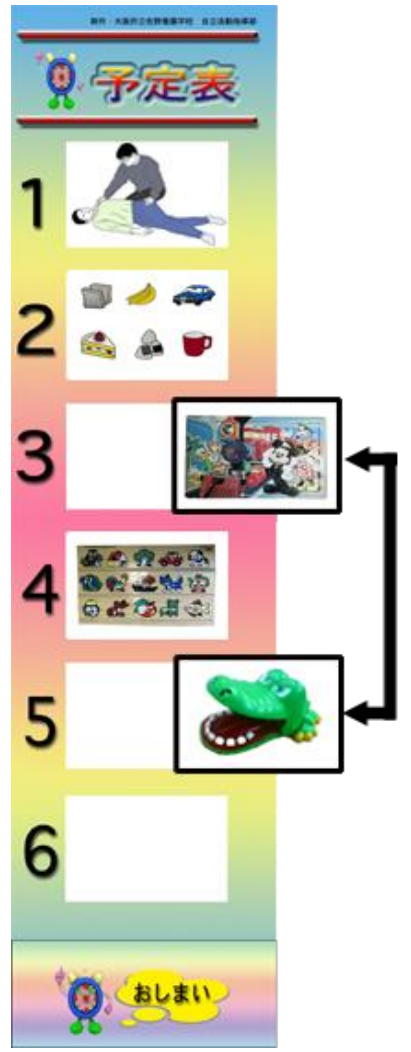


- ①スケジュール表のところへ行く
 - ②絵カードを確認する
 - ③その活動を行う場所へ移動する
 - ④活動が終わったらスケジュール表のところにもどる
 - ⑤「おしまい」ボックスに“取り組みの終わった活動”の絵カードを入れる
- ※②～⑤のステップを繰り返す



※スケジュールの変更があった場合は、目の前で絵カードを入れ替えて変更内容を伝える

※意図的にスケジュールを変える場面を設定し、予定の変更に対応できる力をつけていく



まとめ

- ◆ 自立活動指導における課題・目標設定のプロセスをどのように明確化するか
- ◆ 経験の少ない教員のアセスメント力や指導力が向上するような「話し合い」のシステムをどのように構築していくか
- ◆ アセスメントや設定シートの活用→指導に繋がる（活かせる）取り組みになること

課題や目標設定に至るプロセスを検討するためのツールの導入

研修体制

アセスメント

授業改善